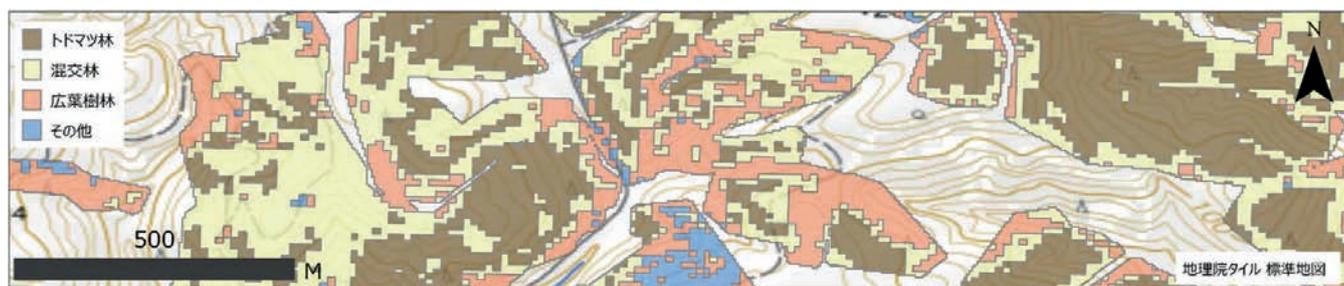
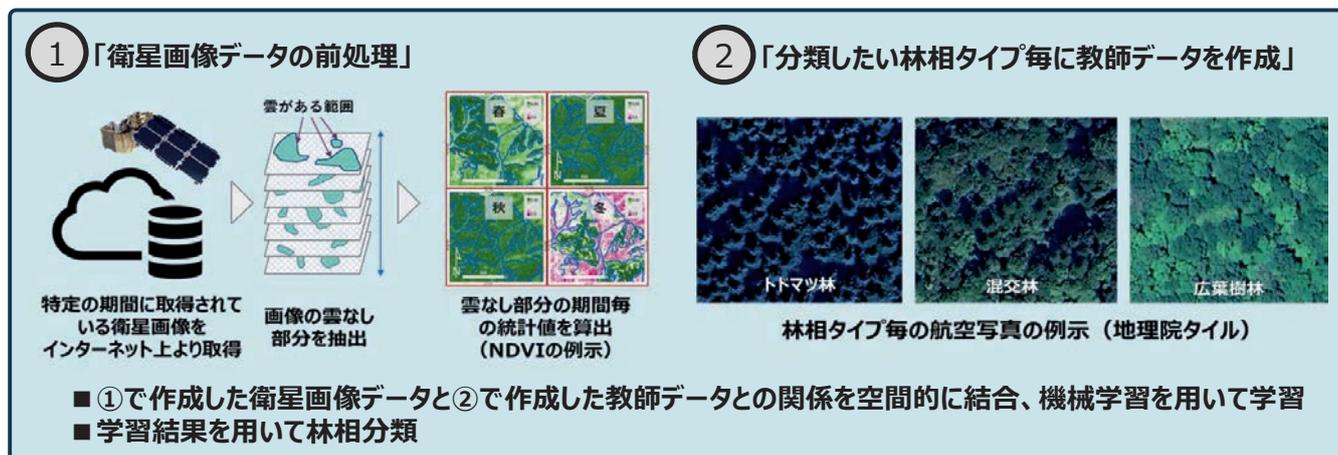


針葉樹人工林内の資源量推定の精緻化に向けリモートセンシング技術を用いて取り組みました

多時期衛星画像による針葉樹人工林内の林相分類技術の開発

課題名(研究期間) 多時期の衛星画像を利用した針葉樹人工林の抽出技術の開発(2019-2021)
多時期衛星画像による針葉樹人工林の成林率把握手法の高度化(2024)ほか



■ 林相分類結果の一部例示

成果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ■多時期の光学衛星画像 (Sentinel-2/ESA) を用いて針葉樹人工林内の林相分類技術の開発を行いました。 ■本技術により、森林簿が示すポリゴンで針葉樹人工林と定義される範囲内において、10 m解像度でどのような林相 (混交林、広葉樹林など) があるかを把握することが可能となりました。 ■針葉樹人工林の資源量推定を広域で精緻化するための基盤データの構築に寄与することが見込まれます。
成果の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■大規模山林所有者による森林管理への利用の検討 ■北海道森林づくり施策 (森林計画課R7、R6、R5) への反映
成果の公表	<ul style="list-style-type: none"> ■蝦名益仁(2023) 衛星画像を使った効率的な針葉樹人工林の把握技術を開発しました! グリーントップックス.65 ■「令和5年度未来につなぐ森林づくり交流会」、「北海道航空・宇宙カンファレンス2024「ドローンから宇宙まで ~農林水産環境分野におけるリモートセンシングデータの利活用~」」等において普及のための講演を行いました。
研究担当	林業試験場 森林経営部経営グループ
連携機関	北海道水産林務部、三菱マテリアル(株)、当別町
特記事項	
備考	